

21 外国にルーツを持つ子どもたちのキャリアを考える

○開催目的

日本で暮らす外国人登録者数は約 210 万人を超え、学校で学ぶ外国籍の子どもたちは 8 万人を超えます。学校生活の中で、語学や文化、習慣のギャップを埋めるために、各地域・自治体でも、日本語教室などの取り組みは徐々に進んできました。

一方で、子どもたちの卒業後のキャリアに関する支援はまだ進んでいません。多様な背景を持つ子どもたちの可能性を大切にしながら、今後、彼ら自身が自らの力でキャリアを選択できるためのサポートについて考えていきます。

○開催日時

2 月 14 日（日）10：00 ～ 12：30

○参加者数・出演者・団体

参加者数：31 名（参加者 26 名、出演者 2 名、スタッフ 3 名）

出演者・団体：田中 宝紀さん（NPO 法人青少年自立援助センター 定住外国人子弟支援事業部）

上田 英司さん（NPO 法人 NICE）

○プログラム内容・成果と課題

●プログラム

・自己紹介

（名前/所属/今日参加をした理由/外国にルーツをもつ子どもたちとの関わり）

・外国にルーツを持つ子どもたちの現状について紹介

田中 宝紀さん（NPO 法人青少年自立援助センター 定住外国人子弟支援事業部）

・当事者の声

日本で暮らすネパールにルーツを持つ方に、日本での生活についての話を伺う

・グループワーク

（話を聞いた感想/自分が考えている課題/これからやっていきたいこと）

●日本で暮らす外国にルーツを持つ子どもたちの現状

- ・2010 年国勢調査によると、同居する親の両方またはどちらか一方が外国人である、外国にルーツを持つ子ども・若者たちが約 183 万人に及んでいます。公立学校における日本語指導が必要な児童生徒数は、年々増加傾向にあり、早急な対応を必要とされています。
- ・外国にルーツを持つ子どもたちが抱える課題としては、まずは言語の問題があり、

さらに、日本に移住をしてきて、生活環境が変化したことによる心の不安や家庭環境・生活への不安を抱えています。

- 日本語教室は広がってきていますが、一方で就労支援はまだまだ広がりが少なく、教育支援と就労支援の違いを明確にしていく必要があります。
- 就労支援と就業支援は異なるので、働く／働き続けるための支援を考えていかなければいけません。

● 成果と課題

- たくさんの外国にルーツをもつ子どもたちが日本国内で暮らしていて、さまざまな生活課題を持っていることを多くの方に知ってもらえました。
- 分野や組織を超えた連携について、考えるきっかけとなりました。
- キャリア支援というところでは、まだグッドプラクティス（優れた取組）も少なく、日本各地で支援の差があることが分かり、継続的に議論が必要であることがわかりました。
- 高校進学後の定着のための支援や、長い人生における働き続けることのできる環境も考えていかなければなりません。

○ 参加者の声

- 外国にルーツを持つ子供の支援の仕方を聞くことができ、今まで知らなかった課題点を知ることができ貴重なお話でした。
- 外国にルーツを持つ人たちをどのように支援するか考えるきっかけになりました。
- 「外国にルーツを持つ子供たち」の定義の理解ができました。高校に進んだ後の支援の大切さを知りました。
- 外国にルーツを持つ子どもたちがどこで苦労しているか、市民一人ひとりが認識し主体的に受け入れる仕組みを作る一員になりたいと思います。

○ 担当者・記録

《担当》	上田 英司（NPO 法人 NICE）
《運営サポート》	小川 美佐子（NEC ネットエスアイ株式会社）
	奥貫 泰行（運営ボランティア）
《担当》	上田 英司（NPO 法人 NICE）
	高橋 沙織（みたかボランティア・センター）

